

J Rの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

米オハイオ で50両脱線

人員・コスト削減で事故続発

3月ダイ改反対、統括センター・ジョブローテーション廃止の声を



50両もの車両が一度に脱線し炎上（23年2月4日撮影 米オハイオ州）

2月3日、米オハイオ州で14両編成の列車のうち50両が脱線して炎上する大事故が発生しました。大気や川に発ガン性物質や毒ガスの成分が放出され、何千人もの地域住民に避難指示が出されました。

3月4日には同じくオハイオ州で212両編成の列車の約20両が脱線して送電線を破壊し、1500軒以上の家屋が停電しました。

要員は3分の1、規制は緩和

米国では今年だけでも10数件の列車事故が起こり、年平均1700回の脱線事故が起きています。事故の背景にあるのは、利益を優先した

規制緩和と人員削減です。

14年に危険物質を運ぶ列車に対して電子制御式空気ブレーキを搭載する規制が導入されました。これに鉄道会社の業界団体が激しく反対

し、18年に規制が撤廃されました。今回の当該列車にはこのブレーキは搭載されておらず、事故を深刻化させたとされています。

問題は設備面だけではありません。当該の鉄道会社はこの20年間で労働者を3分の1まで削減し、鉄道会社全体でもこの6年で労働者の3分の1が削減されました。

労働者には過重労働が課せられ、車両検査の時間も削られました。一方、事故を起こした鉄道会社は22年、株主のために100億ドルの自社株買いを発表しています。

職場からの声と闘いが必要

問題の根本は、鉄道会社が鉄道を「公共交通」 「社会的に必要なインフラ」ではなく「金儲けの手段」としていることにあります。

J R東が進める統括センター化・業務融合・職名廃止は、鉄道業務もそこで働く労働者もあまりに軽視しています。その姿勢は、相次ぐ強制配転にも表れています。

3月ダイ改合理化・「その他時間」反対、統括センター・ジョブローテーションの制度撤廃を求めて、動労千葉と共に声をあげよう。

※

3・18 動労千葉総決起集会

3月18日（土）13時～D C 会館（千葉市中央区要町2-8）